

第4次北股地区コミュニティ計画書

1. 社会的背景

第一次コミュニティ計画（平成20年度）では「岩手・宮城内陸地震」が発生し、第二次コミュニティ計画（平成23年度）の際は「東日本大震災」が発生しました。第三次見直し（平成28年度）を経て、第四次見直しとなる今回は「新型コロナ」が社会全体を大きく変えました。「緊急事態宣言」により県境を超える人の移動が制限され、感染症対策と経済の両立が課題となる一方で、企業や若者の中には「密」を避けて、「テレワーク」や地方への移住などの新たな生活様式が生まれています。

こうした中、衣川地域会議から奥州市宛てに「衣川の地域振興に関する提言」がなされ、世界に目を向けても、コロナ禍の中でアメリカも日本もリーダーが変わり、「地球温暖化対策」を始め「持続可能な発展（SDG's）」の取り組みが進められています。少子高齢化や低迷する経済など、国内の情勢は変わらないものの、人々の意識が変化している今こそ、持続可能な地域づくりが求められています。

2. 自然環境

奥羽山脈のふもとの北股地区は、衣川の北西の端に位置し、長塚山や高檜能山を源流とする北股川と県道37号線に沿って、民家と農地が細長く続いています。周辺を取り囲む森林は、三つの滝（衣の滝・菊の滝・三滝）の景観美とともに、先人の歴史を物語る数々の地名（吉次屋敷、十万坂、首人山など）を今に伝えています。

起伏が多く、幹線道路から離れているため、生活の利便性には恵まれないものの、豊かな自然は、山菜採り（春）森林浴・ダイビング（夏）キノコ・紅葉狩り（秋）スキー・雪遊び（冬）など、人々の四季折々の暮らしと癒しの場となっています。また、昭和30年代後半から脈々と受け継がれてきた針葉樹の造林地は、60年生を過ぎて利用伐期に達しており、かつての広葉樹の薪炭林とともに、脱炭素の時代に向けて大きな可能性を秘めています。

二度の日本一に輝いた星空とともに、「大きな公園」とも言えるようなこの環境を、「地域の宝」として次代に引き継いでいくことが大切です。

3. 人口動態

北股地区の人口及び世帯数は、それぞれ457人、138世帯（2020年9月現在）で、人口及び世帯数とも、奥州市の30地区センターの中で最も少ない地区です。

別表1別表2が示すとおり、1993年からの約30年間で、世帯数の減少がわずかに10%なのに人口は40%以上も減少しています。特にも14歳以下の子供が8割以上減少し、15歳から64歳までの年代が半分以上減少する一方で、65歳以上の年代が4割以上増加（高齢化率46.4%）するなど、少子高齢化の急激な進展と高齢世帯の増加が地域の大きな課題となっています。

コロナ禍が人々の意識を変えた今こそ「衣川の地域振興に関する提言」の冒頭に記載の「人口減少の悪循環の連鎖」と「消滅可能性」からの脱出が必要です。

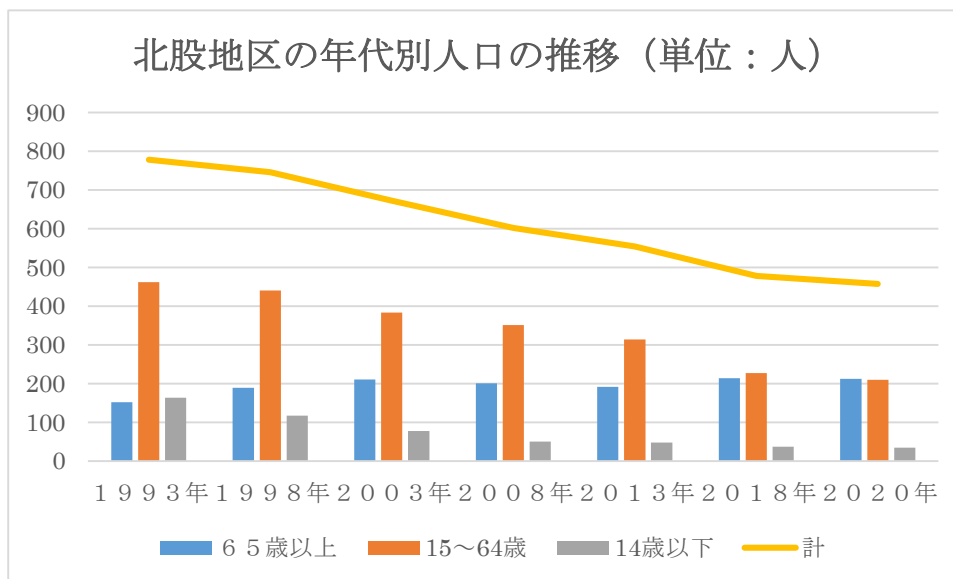
(別表1)

世帯数の増減 (単位:世帯)(1993年比%)			
行政区	1993年	2020年	割合
大平	17	16	94%
有浦	31	27	87%
西窪	31	30	97%
外の沢	40	37	93%
天田	24	20	83%
桑畑	10	8	80%
合計	153	138	90%

(別表2)

北股地区の年代別人口の推移								単位:(人)(1993年比%)
年代別	1993年	1998年	2003年	2008年	2013年	2018年	2020年	割合
65歳以上	152	189	211	201	192	214	212	139%
15~64歳	462	440	383	351	314	227	210	45%
14歳以下	164	117	78	50	48	37	35	21%
計	778	746	672	602	554	478	457	59%

(図1)



4. 住民意向調査(アンケート)に見る北股の課題

本計画の策定にあたり、岩手県立大学などと協働で住民意向調査(アンケート)を実施しました。そこから見えてきた北股の課題は以下のとおりです。

- ①子育て環境の充実や地区外からの移住などを促す人口対策
- ②安心・安全で心地よく暮らし続けられる生活環境づくり
- ③誰もが健康で安心して齢を重ねられる健康・福祉・介護支援
- ④農地や森林などの資源を保全し、活用する産業振興とそれを妨げる獣害対策

(アンケートの詳細は別紙報告書のとおりです)

5. 北股地区のめざす将来像

こころ豊かに自然と調和する
誰にもやさしく・なつかしい、住みたい・住み続けたい『きたまた』

計画づくりのスローガン

コミュニティづくりのキャッチフレーズ

き … キラッと輝く 地域の光
た … 楽しく助け合う 結いのこころ
ま … 守る・学ぶ・育てる 人と自然への優しさ
た … たくましく・頼もしく 新しい暮らしと仕事

6. まちづくりの重点施策

① 人口・子育て・教育

- ◎子供の遊び場や親子の憩いの場などの設置に向けて、行政との協働を進めます。
 - ◎子供の学習環境（自然・文化・伝承等を含む）や生涯教育の充実を図ります。
 - ◎北股出身者のネットワークづくりや外部からのボランティアの受け入れなど、拡大人口（※）を増やして、出身者のUターンや若者のIターンにつなげます。
- ※拡大人口…関係人口、関心人口など、地域に住まなくても関りや関心を持つ人

② 安心・安全・環境

- ◎自主防災会などの活動や研修を通じて、暮らしの安心・安全の確保に努めます。
- ◎高齢化が進んでも生活利便性が低下しないよう、関係機関との協働を進めます。
- ◎恵まれた自然環境と共生する暮らしが、次世代に継承されるよう努めます。

③ 健康・福祉

- ◎高齢化が進んでも介護や健康が維持されるよう、関係機関との協働を進めます
- ◎全ての世代が、体力づくりや趣味の活動などをする機会の増加に努めます。
- ◎地区内外の人材の参画を得ながら、ボランティアの定着と多様化を図ります。

④ 農業・産業

- ◎農地や森林資源の保全・活用と、イノシンなどの獣害対策に取り組みます。
- ◎ITなどの技術を活用した、コロナ後の時代を見据えた産業振興を図ります。
- ◎拡大人口による若者などの参画を得ながら、中心経営体の育成を図ります。

【参考】衣川の地域振興に関する提言書（令和3年3月）

「提言における地域ビジョン」及び「3つのテーマ」

⇒北股地区コミュニティ計画書【第4次概要】（P5）参照

7. 各部門のめざす目標

北股地区振興会のそれぞれの専門部では次の目標を掲げて活動します

「安全・安心・環境・総務部門」

- ◎四季折々、日本一の星など、癒しや元気を与えてくれる北股の自然環境を後世に引き渡すため、その豊かさを共有しながら外部にも発信して参画を求めています。
- ◎大地震や洪水などの自然災害に備え、自主防災組織を中心に防災マップ等で危険個所の把握・対策に努めます。また、防災訓練等を継続し住民の意識を高めます。
- ◎生活道路や河川等の生活環境の不備を把握し、市や関係機関に対策を要望します。また、ゴミの不法投棄や空き家の状況を把握し、地域の安全に努めます。
- ◎振興会活動の充実を図るため、地区内外の若い人達の声を積極的に反映させます。また、住民ニーズを把握しながら地区センターの管理運営に努めています。

「健康と福祉部門」

- ◎子供から介護を必要とする人まで、全ての世代が心身ともに健康で健全な生活を営むことができるよう、「助け合い・支え合い」意識を育む活動に取り組みます。
- ◎北股地区振興会を中心とするボランティア（内部・外部）活動の定着と多様化を通じて、生活の利便性を高めるための支援活動を実施します。
- ◎それぞれの活動を通して、全世代が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「ふるさと・コミュニティづくり」を目指します。

「生涯学習・スポーツ・イベント部門」

- ◎趣味等のサークル活動を活発化して、様々な世代の楽しみや「生きがい」づくりを推進していきます。
- ◎各種イベントや講座等を通して、地域の誰もが笑顔でふれあい、憩いの場となるよう推進します。
- ◎地域にある芸能は、若者へ継承し、途絶えさせることなく次世代へ引き継ぎます。
- ◎スポーツを通して地域住民の健康を促進するとともに、住民同士が親睦交流する場を提供します。

「地域産業振興部門」

- ◎北股の全ての行政区が導入している中山間地域等直接支払交付金制度を活用して、外部の人材の参画も求めながら、地区内の農地と農業を守り、生活全体を守ります。
- ◎万全の感染症対策の下、地区内外の人的交流を通じて、新たな特産品開発や人材の移住（Iターン、里帰り農業、定年帰農）につながる、拡大人口を増やします。
- ◎先人から受け継いだ森林資源が一斉に伐期を迎えることから、地域ぐるみの獣害（イノシシ、シカ等）対策と併せて、里山の保全と有効活用に取り組みます。
- ◎自然（森林、滝、星空）や人々の暮らし（スキー場、温泉・店舗）などの資源と、コロナ後の変化（テレワーク、副業、ITなど）に着目した新規事業を試行します。

北股地区コミュニティ計画書【第4次概要】

1 北股地区コミュニティ計画の策定経緯

平成 21 年 3 月 第 1 次計画策定 (対象期間：平成 20～22 年度)

平成 23 年 4 月 第 2 次計画策定 (対象期間：平成 23～27 年度)

平成 29 年 3 月 第 3 次計画策定 (対象期間：平成 28～32 年度) ※第 2 次の見直し

2 第 4 次コミュニティ計画の策定趣旨

奥州市では平成 28 年度から協働のまちづくり第 2 ステージを進める一環として、地区センターへの指定管理者制度を導入し、市内 30 地区センター全てに適用している。また、地区センターを拠点とした住民主体の地域づくりを重要視する観点から、地区センターの指定管理者を公募せずに地区振興会に限定して、交付金等による財政支援も行っている。

北股地区では、「指定管理に関する基本協定（第一次 H29～H31、第二次 R2～R5）」を締結して、指定管理事業費や交付金による活動を展開している。今後も引き続き住民主体の地域づくりを推し進めていくために、活動の基本方針となる「第 4 次コミュニティ計画」を策定するものである。

3 第 4 次コミュニティ計画の対象期間

令和 3 年度から令和 7 年度の 5 年間とする。

4 第 4 次コミュニティ計画の策定方針

第 3 次コミュニティ計画の成果を分析評価して、「新型コロナ」を始めとする社会情勢や地域をとりまく環境の変化を考慮しながら、必要な見直しを加えることを基本とする。

また、岩手県立大学及び東北学院大学と共同で実施した「アンケート調査」の結果や、衣川地域会議から市に提出される「衣川の地域振興に関する提言書」(※)の趣旨にも留意して、奥州市や衣川全体の振興策とも合致する、より実現性の高い計画とする。

【参 考】

※ 衣川の地域振興に関する提言書（令和 3 年 3 月）

1. 提言における地域ビジョン

人口減少の悪循環の連鎖からの脱出

「安心して子供を産み育てられるまちづくり、誰もが笑って住み続けられるまちづくり」

2. 提言の 3 つのテーマ

テーマ 1：子どもを安心して産み育てたい人を増やす社会環境づくり

テーマ 2：暮らしやすい環境づくり（衣川地域の発展軸の形成）

テーマ 3：生活と農業等の産業に関する課題の解決

【施策別計画表No. 1 人口・子育て・教育】

◎実施主要部門 ○関係部門

実施内容	実施主体	総務	福祉	生涯学習	産業振興	備考
若者のまちづくり参加促進	振興会	◎		○		夏祭り実行委員会事業継続。消防団・活動サークル設立支援
出会い支援事業	振興会	◎				出会い・交流の場の提供。ボランティア等の男女共同活動等の機会創出
2025 タイムカプセル事業	振興会	◎				北股小学校 120 周年記念事業（開封）及び新規事業（埋設）。北股会と連携・協働
デジタルネットワーク環境整備	振興会	◎		○		地区センターをハブとした光回線・無線ネットワーク整備。（行政区長、高齢者、拡大人口等）
子育て相談・交流活動の充実	振興会		◎	○		乳幼児・未就学児の子育て相談や、親子で交流出来る機会を作る。他地域での事例等の情報提供の機会創出
教育環境の充実	振興会		◎	○		校外学習や（学生）ワークキャンプを取り入れた学習指導
子ども・乳幼児の遊び場の確保	振興会		◎	○		地区センター・各公民館周辺等の遊び場環境の充実
子育て世代のリクエスト事業	振興会		◎	○		第3次計画継続
衣川のお宝たんてい団	衣川小学校	○		◎		学校や子供のニーズへの対応
子供会・PTA活動支援 冬の学校	PTA 子供会 振興会			◎		地区センターの利活用と併せた事業推進。雪遊び等を取り入れた北股ならではの事業の実施
子育て支援 子供の遊び場確保	振興会		○	◎		親子教室、ママパパ講習等開催・遊具の設置等
歴史資料館管理運営 昔の工芸、生活の継承	北生会			◎		小学校体験教室等の対応
夏祭り	実行委員会	○		◎		実行委員会主催で企画開催
ふるさと同窓会	〃	○		◎		オンライン、SNS 等によるネットワーク化。各種祭り時等に同窓生が集まり交流、北股会と連携
地区センター開放	振興会	○		◎		安全を確保した上で、体育館・図書館・グラウンド等を活用
移住・定住に向けた 取り組み	振興会	○			◎	空き家、地区センター空き部屋の活用調査
国見平スキー場 国見平温泉の有効活用	PTA 子供会 振興会		○	○	◎	スキー教室の継続、イルミネーション等の集客対策。地域資源を活用した健康福祉対策、雇用の確保。
伝承芸能活動支援	芸能団体			◎	○	学校及び都市部の芸能愛好団体等との連携。日本型直接支払の活用

【施策別計画表No. 2 安心・安全・環境】

◎実施主要部門 ○関係部門

実施内容	実施主体	総務	福祉	生涯学習	産業振興	備考
防災・交通安全等の啓発活動	自主防災会	◎				特殊詐欺防犯講座等も含めた啓発活動
合同防災訓練 (6月14日 8:43)	自主防災会	◎				6/14 近辺の土・日(同時刻)を中心に訓練を実施
防災マップの作成	自主防災会	◎	○			社会福祉協議会“支え合いマップ”と同時作成。定期的な見直しを実施
防災研修・被災地視察研修	自主防災会 振興会	◎				東日本大震災から10年、防災意識の維持・高揚
地区内の空き家状況の把握	自主防災会 振興会	◎			○	当面は防犯上から、空き家状況を把握。将来は移住者受入れツールとして活用
危険箇所の点検及び標識・歩道設置	振興会	◎				定期点検活動を推進し必要に応じて市への地区要望とする
ゴミ捨て状況調査	振興会	◎				山と川のクリーン作戦含む。公衆衛生組合、不法投棄監視員と連携
センター一斉清掃	振興会	◎				春と秋の年2回の奉仕作業の継続
調理加工室の改修	振興会	◎			○	農産物の加工販売、ワークキャンプ・食芸まつり等のイベント。将来の移住対策に向けた設備の充実
生物達の環境づくり	振興会	◎				山や川の環境整備による生物多様性の保全。(イノシシや鹿等の獣害対策と併せて検討)
河川景観の保全 (支障立木等の除去)	振興会	◎				地元の要望に基づく行政(県・市)への要望及び協働。魚類や水生昆虫の多様化に向けた堆積土砂の除去
川遊び場の整備	振興会	◎	○	○		子供たちや住民が安全に川等に親しめる場の整備を進める
お宝(名勝・景観・史跡等)保全	振興会	◎		○		3つの滝などのお宝情報の収集と内外への発信史跡・名勝等の保全対策を兼ねた地域巡りルートの設定
(広域)林道沿線の環境整備	振興会	◎			○	地域巡りルート等の林道周辺の景観整備市との協働による草刈・支障木の伐採等
山川・地層の自然観察会	振興会			◎		貝などの化石の出土箇所の把握・取りまとめ。観察できる機会の提供
星空観察会・施設の有効活用	振興会	○		◎	○	星を見る会等との連携による定期的観察会の実施。指定管理による多用途化、ワークキャンプ等のメニュー化
アウトドアイベントの促進関連施設整備	振興会	○		◎	○	センターグラウンドや星空の広場等のキャンプ・車中泊葦名堰周辺の散策路(フットパス)など

【施策別計画表No. 3 健康・福祉】

◎実施主要部門 ○関係部門

実施内容	実施主体	総務	福祉	生涯学習	産業振興	備考
各行政区のサロン活動の充実	各行政区		◎			行政区ごとの定期的なサロン開催へのフォロー活動
世代間交流活動	各行政区		◎			工芸品の伝承活動等も含む
気軽に集まれる居場所づくり	振興会	○	◎			地区センター・国見平温泉を活用
介護用品・介護相談の窓口支援	振興会		◎			介護支援者を対象とした相談窓口の仲介などの事業化
高齢者福祉補完施設としての予備調査	振興会		◎			高齢者受け入れ(数時間・半日・日帰り等)の体制整備と地区センターの活用方法の検討着手
健康維持体操	振興会		◎			健康講座の継続
内外のボランティアの有効活用	振興会		◎		○	ボランティアワークキャンプ等を利用した本人及び家族の課題解決
セーフティネットを活かした地域づくり	振興会 社会福祉協議会		◎			行政区ごとの活動をフォローし、北股全体のセーフティネットを総括できる仕組みの構築
高齢者福祉事業	振興会	○	◎			敬老会、国見平温泉を活用したサロン、健康づくり
買い物・交通対策	振興会		◎		○	マイクロスーパー、移動販売、地域交通可能性調査。 免許返納者、学生の利便性向上
地区センター集住可能性調査	振興会		◎			衣川地域会議による政策提言
オンラインケア	振興会	○	◎			高齢者用端末(アレクサ等)によるネットワークケア
グランドゴルフ等のイベント開催	北生会			◎		ゲートボールを含む
スポーツ交流会の開催	北股体育会			◎		第3次計画の継続
趣味サークルの設立支援	サークル団体			◎		趣味・憩い・健康活動等
リクエスト事業・リクエスト講座	振興会		○	◎		地域からの要望に応えた事業・講座の開催
きたまた食と芸能祭りの開催	振興会			◎	○	地域内外の芸能発表・収穫祭りとして開催

【施策別計画表No. 4 農業・産業】

◎実施主要部門 ○関係部門

実施内容	実施主体	総務	福祉	生涯学習	産業振興	備考
中山間地域等直接支払協定組織連絡協議会の設立	産振協議会				◎	農地維持・保全等の課題解決に向けた連携組織体制づくり
先進地視察・研修会の開催	振興会				◎	第3次計画の継続
特産品の栽培	振興会				◎	行者にんにく・しゃく他、新規作物の試験栽培を継続
地域産業・農業の担い手育成・体制整備のための予備調査	振興会				◎	中山間組織ほか
森林・農地等の有効活用	振興会				◎	衣川地域会議の提言に基づく、住宅や別荘の開発・誘致への働きかけ。里山再生・開発・レンタル等への取り組み
イノシシ・シカ等の鳥獣害対策	振興会	○			◎	中山間連絡組織(設立)と連携した鳥獣害対策
小規模店舗移動販売予備調査	振興会		○		◎	既存店舗等を活用した小規模店舗の開設・移動販売の可能性調査
水環境改善への取り組み	振興会	○			◎	排水の浄化・自然湧水調査等、清浄な流水の確保を図る活動推進
販売組織の支援	振興会				◎	山ブドウ・ブルーベリー等の特産品の生産性の向上。HP開設・ネット販売等による地場製品の販売促進
都市農村交流	振興会	○			◎	都市間交流・情報発信・移住定住と合わせて継続実施
地域農業の6次産業化支援	振興会				◎	加工技術の取得・特産品づくり講習会・加工料理講習会等
ワークキャンプによる農業支援	振興会	○	○		◎	ワークキャンプ拠点としての地区センター活用。農作業支援、耕作放棄地対策、体験圃場、農地レンタル
地区外家族との農村体験交流	振興会				◎	企業・学校等を含む
地域の魅力・特産品等の情報発信	振興会				◎	ホームページ、SNSの活用
里帰り・定年帰農の促進	中山間組織				◎	中山間地域等直接支払制度の加算措置の活用
森林の若返り促進	振興会				◎	里山広葉樹の利活用(薪・炭・山菜等)